

みどころ

①

大鳥居



大正14年建立の大鳥居

山田区民の寄付により建設。石柱は海老津駅から牛車を使用しないで人力により運ばれた。

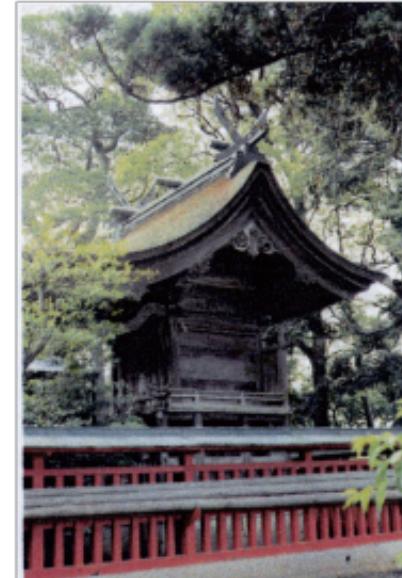
②

鳥居



うじもりはぢまんぐう

氏森神社



創建年代は不詳。山田の周辺は縄文・弥生遺跡が多く存在しており、早くから集落が形成され鎮守の神が祀られていたと考えられる。現在の神殿は1996年5月1日に再建されたもの。現在の例大祭（おくんち）は4月9日・10日に行なわれている。

氏森神社のお守り札。安産の守り札として「安産守護」のお守り札と「白糸」が一緒に授けられている。

④ 寶樹院



うじもりはぢまんぐう

③ 氏守八幡宮 (氏森神社境内)



福岡藩家老である「三奈木里田家」の初代・里田一成が1603年に建立した。この神殿は山崩れによつてお宮が倒壊した時に1804年再建された神殿を氏森神社社殿の裏手に移転されて現存している。

大正12年に氏森神社に合祀されている。

③ 安産腰掛石 (氏森神社境内)



安産腰掛石は本来氏守八幡宮にあり、その後ではないかと思われるが詳細は不明である。この石に腰掛けすると安産になるとと言われている。

清石山寶樹院弘増寺といい、開山以来浄土宗の寺である。開山の僧は弘阿誓源大和尚 1261年入寂（浄土宗の第二祖鎮西聖光上人の直弟子）その後中絶についてその子行永妙泉比丘尼という高徳な禪尼により再興され1511年入寂。禪尼の死後荒廢していたため、筑後の寺修寺開山念菴上人行明和尚を招請して再興を依頼遂に再興を果たして中興開山の号を付与された。

⑤ 地蔵堂



寶樹院の境内にあり、本尊仏と左足を前に垂らす座像の地蔵尊で、「足垂地蔵尊」と言われている。願いを込めておずかに垂らすことは一度は必ずお慈悲にあずかると言われている。

この地蔵尊は寶樹院を再興した妙泉比丘尼の守護本尊仏ではないかと言われている。